

Q1(1). 広島湾の今と明日に向けて (現状)

流域も含めた広島湾(以下、「広島湾」という。)の現状について、どのように思われますか。

また、これからどのようになっていけばよいと思われますか。

【Q1(1)】 その1

- 現在の状況を「汚い」「悪化している」と解答する人がいる一方で、「以前に比較してきれいになった」と解答する人もいた。
- 現状を「きれいになった」と答える人は、高度経済成長期以降の状況と比較し、改善傾向を感じている。なお、その要因としては主に水質の改善や生物の生息を挙げている。
- また、現状を「良くない」と答えた人は、理由として水質(透明度)の低下、河口や海底へのヘドロの堆積、親近感の低下、ゴミの増加等を挙げている。

良 好(きれい、良くなった)

以前と比べて・・・

- 20～30年前に比べてかなりきれいになった。下水道の整備が進んだせいかな？
- 10年～20年前の状況を考えれば、やはり改善されてきている。
- 10年前と比べて海はきれいになったと思っていた。
- 昭和40年代～50年代に比べると、目で見ただけでは海はきれいになっている。
- 20年前に比べて環境は良くなった。 など

水質が・・・

- 河川・海域の水質はまあまあ良い。
- 流入河川域の負荷は減ってきつつあるのかと思う。
- 目に見える上層は一見きれいに見える。 など

生物が・・・

- まだおいしいカキがとれる海。
- これだけの貧酸素水塊が生じながらも、湾の最も奥で、秋になればカレイもハゼもタチウオも釣れる。カキ養殖をはじめ、生産性は高い。
- 以前より少しきれいになった様。河川に魚が見られる。 など

悪 化(きたない、悪くなった)

水質が・・・

- 観光地の水質が悪く、悪臭がする。
- 水色が緑色の広島湾はきれいであるとは思わない。
- 水の透明度が、失われていく。 など

底質が・・・

- 河口・海底にヘドロが多すぎる。
- 太田川下流の干潟にヘドロが見えるのが悲しい。
- 底層の貧酸素化が問題。 など

親しみが・・・

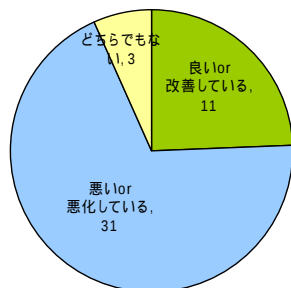
- 親しみが持てない。近づきにくい。
- 人々が海に関心がない。
- 汐のにおいがしない。
- 泳げる場所が少ない。
- 立ち入り禁止場所が、非常に多い。
- 自然の風景美がなくなりつつある。 など

ゴミが・・・

- 太田川、瀬野川からのごみの流出が多すぎる。
- 海水の汚れがひどく、浮遊物が多い。 など

現状に関する印象の内訳（環境要素別）

【水質について(解答者 計 45 名)】



「良いor改善している」という主な意見

→ 20～30年前に比べてかなりきれいになった。
→ 10年～20年前の状況を考えれば、水質は改善されてきている。

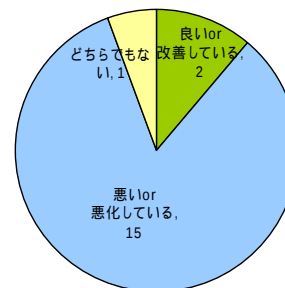
「悪いor悪化している」という主な意見

→ 赤潮発生、貝毒と汚染が進んでいる。
→ 海水の汚れがひどく、浮遊物が多い。透明度も悪い。

「どちらでもない」という主な意見

→ 汚くはないけど、きれいじゃない。

【底質について(解答者 計 18 名)】



「良いor改善している」という主な意見

→ 20年前に比べて環境はよくなった。
→ きれいだと思うことが多くなった。

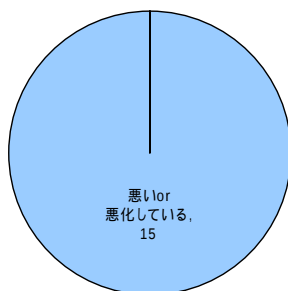
「悪いor悪化している」という主な意見

→ 海底のゴミ等、底質の悪化が著しい。
→ 水質はさほど悪くないが、過去に堆積したリン・窒素が海域環境を悪くしている。

「どちらでもない」という主な意見

→ 汚くはないけど、きれいじゃない。

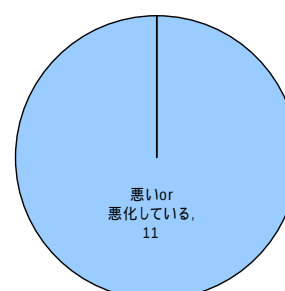
【ゴミ・美観について(解答者 計 15 名)】



「悪いor悪化している」という主な意見

→ 自然の風景美がなくなりつつある。
→ 海浜の埋立が多すぎる。
→ 海岸には、たくさんゴミがたまり、とても汚い。

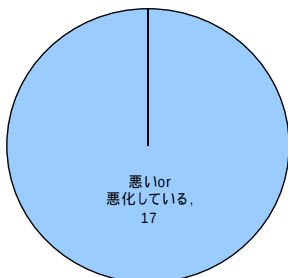
【生物生産や漁獲について(解答者 計 11 名)】



「悪いor悪化している」という主な意見

→ 底生生物を始めとした水産資源(多様性を含めた)の減少。
→ 昔は砂浜でゴカイ、タコ等がとれていた。
→ 水質・底質とも悪いので貝類がとれない。

【親水性について(解答者 計 17 名)】



「悪いor悪化している」という主な意見

→ 広島湾の多くが、人工護岸で企業や港湾がはりついており、人々が気軽に海に接する場が失われている。
→ 浄化しにくい環境と汚泥の存在(人工海岸・藻場の減少など)で親しみにくい。

グラフ内数値は解答者数を示す

図-1 現状に対する印象の内訳（環境要素別）

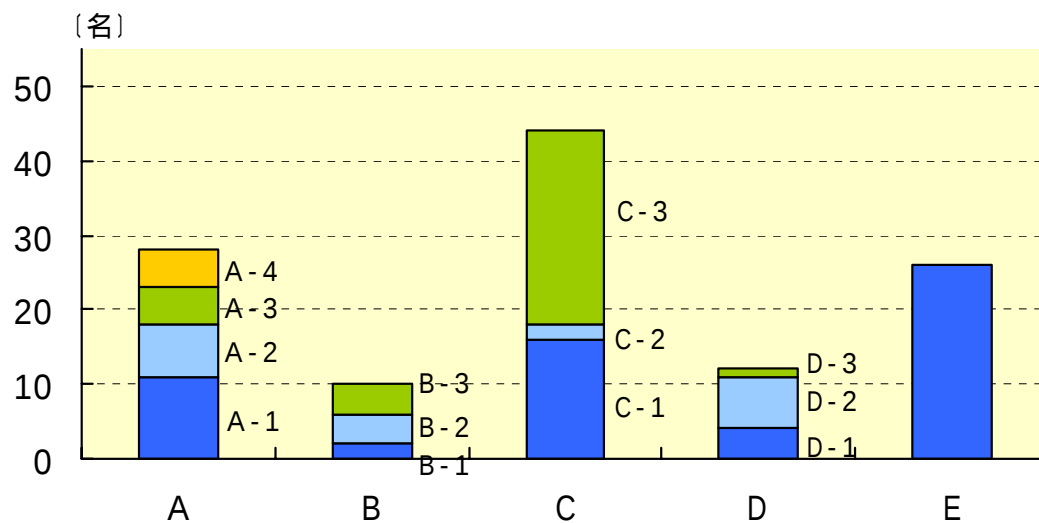
Q1(2). 広島湾の今と明日に向けて (これから)

流域も含めた広島湾(以下、「広島湾」という。)の現状について、どのように思われますか。

また、これからどのようになっていけばよいと思われますか。

【Q1(2)】 その1

- 最も多かったのは「人と海とのつながりの再生」に関連する意見で、市民の意識改革や子供たちへの環境教育の必要性等を挙げている。
- 「森・川・海の物質循環バランスが生物の生息や人々の利用に適したレベルで持続」と「生物生産・生息場の再生」に関連する意見には、海域悪化要因解明のためのメカニズム分析や底質除去技術、浅場造成等の技術開発を求めるものも多かった。



解答者計 123 名

解答結果の詳細は次頁(その2)を参照

図-2 解答結果内訳

【 凡 例 】

A) 「森・川・海の物質循環バランスが、生物の生息や人々の利用に適したレベルで持続」に関連した意見

(A-1) これからの水質に関する意見 (A-3) これからの技術開発に関する意見
(A-2) これからの底質に関する意見 (A-4) その他の意見

B) 「生物生産・生息場の再生」に関連した意見

(B-1) これからの生物生産に関する意見
(B-2) これからの生物の生息環境に関する意見
(B-3) これからの技術開発に関する意見

C) 「人と海の繋がり」に関連した意見

(C-1) 市民の意識を高めることに関する意見
(C-2) 子供たちや市民との連携に関する意見
(C-3) 場(空間)の提供に関する意見

D) 「自然景観・歴史・文化などの保全・再生」に関連した意見

(D-1) 美しい景観の保全に関する意見 (D-3) その他の意見
(D-2) ゴミの削減に関する意見

E) その他の意見

A)「森・川・海の水質循環バランスが、生物の生息や人々の利用に適したレベルで持続」に関連した意見

(A-1) これからの水質に関する意見

- 底層の貧酸素化を改善する。
- 北部海域は、南部海域のような水質レベルに改善されればよい。
- 瀬戸内海レベルの水質を目標とする。
- 北部海域を中心とした再生事業の実施。

など

(A-2) これからの底質に関する意見

- 入り江等に蓄積しているヘドロの除去。
- 海底環境をリセットする必要がある。

など

(A-3) これからの技術開発に関する意見

- ヘドロの除去技術を開発してほしい。
- 流入負荷削減の推進と課題解決への技術的発展(コストを考慮)。
- 海域環境悪化メカニズムの分析と原因の特定。

など

(A-4) その他の意見

- 流入負荷削減の推進。

など

B)「生物生産・生息場の再生」に関連した意見

(B-1) これからの生物生産に関する意見

- 昭和30年代後半の広島湾の漁業環境になればよい。
- 海産物を安全に美味しく安心して食せるようになってほしい。

など

(B-2) これから生物の生息環境に関する意見

- 干潟・藻場が多く、生産能力が高い湾。
- 広島湾の改善も含め、生物の棲める海に戻したい。
- 可能な限り様々な生物等、環境の整備をしていく必要がある。

など

(B-3) これからの技術開発に関する意見

- (昭和30年代後半の漁業環境に戻す)その手法を開発するのが問題。
- 藻場、干潟の再生を適正な技術によって、再生する取り組みが必要。
- 少なくとも干潟の生物調査が必要。

など

C)「人と海の繋がりの再生」に関連した意見

(C-1) 市民の意識を高めることに関する意見

- 河川や海浜にその場所の環境数値を表示する等、市民の関心を起こし、協力を促す必要がある。
- 市民参加型を積極的に行い、意識改革を強める。
- みんなが、本物の現状を知るべき。

など

(C-2) 子供たちや市民との連携に関する意見

- 子供の取組み、科学に対する教育に力をいれて欲しい。

など

(C-3) 場(空間)の提供に関する意見

- 親しみのある施設を作り広島港を憩いのある港にすることが必要。
- もっと開放すべきではないか。海への有料道路を無料とする。
- 白砂の造成。遊びに行ける海・干潟を作る。

など

D)「自然景観・歴史・文化などの保全・再生」に関連した意見

(D-1) 美しい景観の保全に関する意見

- 瀬戸内の多島美をこれからもずっと楽しめる地域であってほしい。
- 浄化して魚種も多くする様にして世界に誇れる景勝を活かして、地域の活性化を行い観光地としていくべき。

など

(D-2) ゴミの削減に関する意見

- 海ゴミを流域や海域から出さない仕組みをつくっていくことが必要。
- ゴミ、有機物をいかに効率よく回収するか検討する必要。

など

(D-3) その他の意見

- 平和都市の玄関として又は物流の拠点としての整備が欲しい。

E) その他の意見(今後の行政の取り組み等について・・・)

- ゆっくりと再生していただきたい。
- 北部を重点的に再生するべきである。
- 再生目標を立て、行動して行くべき。
- 30年前の海へ復元する必要がある。

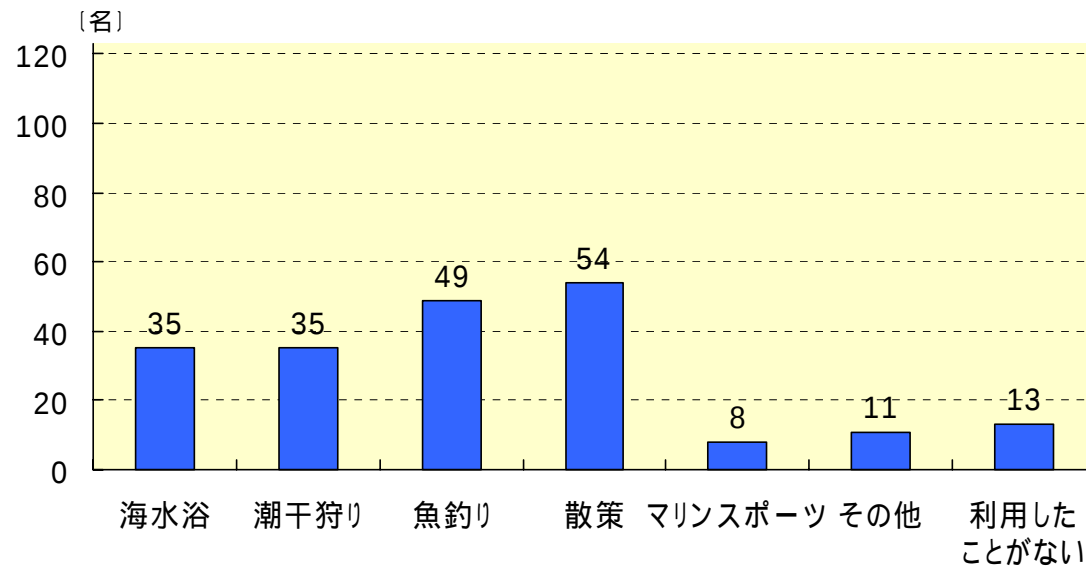
など

Q2. 広島湾(海岸部を含む)をどのように利用されていますか。該当するものに○をしてください。

ア.海水浴 イ.潮干狩り ウ.魚釣り エ.散策(ジョギング等含む)
オ.マリンスポーツ(サーフィン、ダイビング、ボートセーリング等) カ.その他() キ.利用したことがない

[Q2]

- 解答者 123 名中、過半数を超えた解答はない。
- その他の意見としては「クルージング」、「ドライブ」、「漁業」、「観光」等の意見があった。



解答者計 123 名

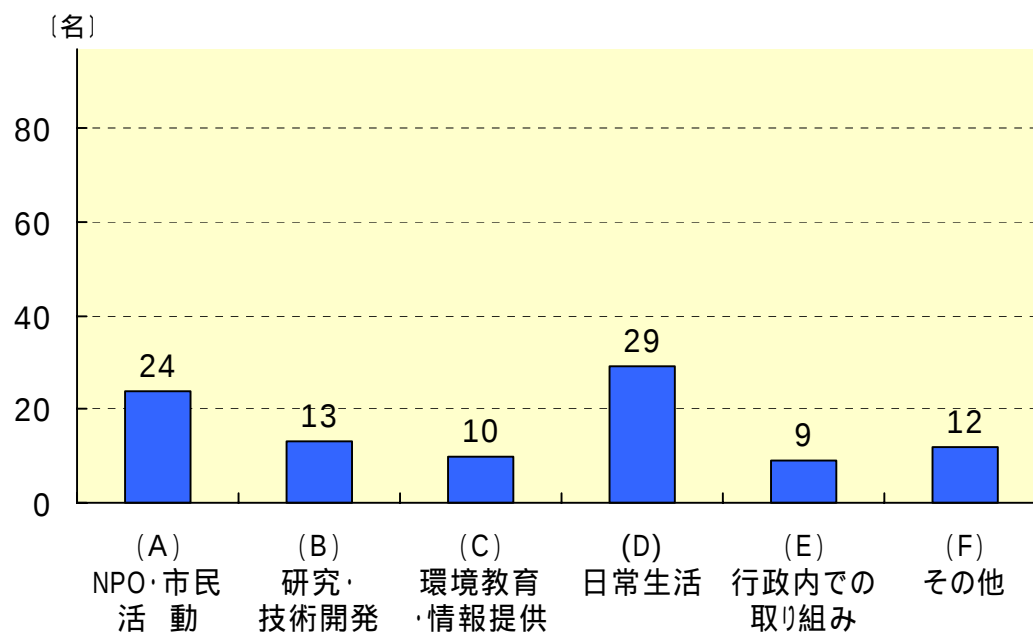
図-3 解答結果内訳

Q3. 広島湾再生の実現に向けて

広島湾再生の実現に向けて、あなたならどのような形で関わっていきたいと思われますか。

【Q3】 その1

- 解答者 97 名中、過半数を超えた解答はない。
- 最も多かった意見は、日常生活の中で何らかの広島湾再生に係る取り組みを進めたいという意見で、解答者合計の3割近くを占めている。また、次いで多かったのは、NPO やボランティア、市民活動に関わって行きたいという意見であった。



解答者計 97 名

解答結果の詳細は次頁(その2)を参照

図-4 内容別解答者数内訳

A) NPO・市民活動

- NPO活動に参加してみたい。
- ボランティア等で参加できるものがあれば参加していきたい。
- 河川・海岸の美化活動。
- 海、海岸の清掃を企業、団体単位でボランティアとして参加。
- 植林のためのボランティアなど。
- 市民による水域環境の保全活動に参加。 など

B) 研究・技術開発

- 物質循環等の定量的研究。
- 底質改善技術の開発。
- ヘドロ除去技術開発。
- 開発と自然の共生を図る。
- 本当に下水道整備は水質浄化の効果があるのか疑問。 など

C) 環境教育・情報提供

- できるだけ多くの市民に係るような環境意識の向上を図る。
- 実際に海と触れ合う。(海水浴・魚釣り・散歩等)により、海を感じる。
- 建設技術者として、NPO法人会員として児童学習の指導、環境教育活動
- 環境教育などといった、水と触れ合える機会の提供。

など

D) 日常生活

- 海・川にゴミを捨てない・特に生ゴミの投げ捨て防止。
- 身近なところからリサイクル。
- 生活排水の汚れ防止・洗剤の使用量の減少。
- 広島産カキ・シジミを食べる。
- 広葉樹の植林を行う。 など

E) 行政内での取り組み

- 行政に携わるものとして、市民の協力を得ながら、海だけを見るのではなく、川、山の環境改善を行っていきたい。
- 自分は、行政職であるため、下水道の整備の推進等ハード整備に関わっていくのではないか。
- 下水道の関係者として、負荷量の削減に寄与したい。
- 下水道による水質保全(自治体)、高度処理。
- 海浜ゴミの調査。 など

F) その他

- 問題点、悪い点の改善、「こうなってほしい」とのニーズに対し、少しでも役に立てればよい。
- 「再生」という到達点はどこなのか、修復また共生は重要。
- 広島湾再生推進会議に賛同したい。
- 行政施策と一体となって関わってきたい。 など

Q4.その他

最後に、このシンポジウムについてのご感想、ご意見をご記入ください。

[Q4]

- 本シンポジウムについては、全体として好印象を持った参加者が多かった。
- ただし、広島湾再生行動計画のことを含め、本シンポジウムで紹介したような広島湾の現状や課題等について、一般市民に広く周知できるようなシステムの必要性についての意見が多く挙げられている。

今回のシンポジウムに関連する意見

好印象な意見・・・

- 大変有意義であった。勉強になった。
- 来年も期待したい。
- 今後の広島湾のあり方について参考になった。
- とても内容が多様。
- 年に3回位実施するとよい。文化的にとらえることは意義深い。
- 広島湾の現状を把握する上で、非常に参考になりました。
- 講演は、大変分かりやすく、大いに勉強になった。
- 行政側の方にパネリストとして、発表があり今後が見えてきた。
- いろんな意見がでて、大変参考になった。

など

シンポジウムに対する注文・・・

- 老若男女、もっといろいろな人が参加した方がよいと思う。
- 水産系の方が、見られなかった事は片手落ちである。
- 会場内でのシンポジウムは大きな役割は期待できない。
- 広く一般市民に対するアピールを考えるという点では土日の開催にする方がよいのではないか。
- 話題が多岐にわたり焦点がぼやけているように思う。
- 基調講演の印刷物があればよかった。

など

広島湾再生行動計画に関連する意見

- 一般住民への周知が不足しているのではないかな？
- 未だ具体的目標が定まっていないというのには驚いた。
- 再生に向け連携をどう具体化するかが最大の課題と思われ大いに期待。
- 市民・県民への啓蒙を進める。里海の活動を評価したい。
- 積み重ねの努力に敬意を。継続して行く事、各界と連携して行く事。
- 湾再生に向けての課題(現状)をもっと市民に広く周知してほしい。
- 漁業関係者(特にカキ養殖業)の認識が不足で島嶼部の住民の意識が低い。
- 採石事業の禁止ー土砂流出による藻等の消失。
- 釣りえさに問題あり。
- 企業にも法規制のみならず根本的指導への取り組みを！！
- 行政の理想論ではなく、現実的に具体的に実施可能な参加可能な提案をして欲しい。
- 学生を含め海に親しむイベントを行なうことにより、川、海の大切さを認識させる。小学生に同伴する大人も参加。(大人だけのイベントでは無理)
- 海の再生に向けて、もっと情報発信をしてもらいたい。
- 継続して行く事、各界と連携して行く事。

など